

# 2019年度 事業報告

## はじめに

新型コロナウイルス感染症は中国で初めて確認されて以来、瞬く間に世界中に拡がり、わが国も含め甚大な被害が出ています。非常事態宣言が発動され、政府等から感染拡大防止や財政支援等にかかる様々な政策が打ち出されてはいますが、終息時期や第2波第3波の再流行については全く不透明であり、今後の国民生活や経済活動への影響は計り知れません。

2019年度の当協会は、新基幹システム開発事業者の撤退を受け、更新計画の見直しを余儀なくされるといった不測の事態はありましたが、ハードウェアや各種システムにおけるWindows 10対応等は着実に行うとともに、画像系分野の一元管理を目的に導入したPACSレポートシステムについては稼働を開始し、業務体制を強化しました。また、受診者のニーズを踏まえ、採血の安全性向上のための翼状針のさらなる導入推進や胃内視鏡検査拡充に向けた準備など、サービスの向上に向けて取り組みました。さらに講演会の開催や、機関誌、ホームページの利便性向上など、予防医学の普及・啓発活動にも引き続き取り組みました。

経営面においては、数年にわたって好調を維持してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、3月に一部の健診事業の中止を余儀なくされたことが大きく響き、4年ぶりに当期経常増減で赤字を計上することとなりました。2020年度も長期にわたる実質休業によりすでに大きな影響が出ており、収支面・資金面ともに、ますます厳しい状況になっていくことが見込まれます。

先行きの見えない不安な状態が続きますが、当協会としましては、事業再開後の経営基盤の早期回復と職員の雇用確保に全力を尽くしてまいります。さらに、感染防止対策の徹底を図り、安全で安心な健診や検査の提供に努め、尚一層県民の疾病予防と健康増進に寄与するという、公益法人としての使命を果たせるよう、役職員一丸となってさらなる努力を続けてまいります。

# 事業の概要

## 公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

### 1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

#### (1) 広報・情報提供

##### ①機関誌「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

##### ②ホームページでの情報提供事業

機関誌「あすの健康」や「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」等の講演会の案内、当協会内の情報を掲載したブログ記事など、予防医学に関する情報を適宜発信した。ホームページ上で健診センター内を360度見渡せ、歩くように自由に進んでいける館内VRツアーのページと人間ドックを受診されたことのない方がイメージできるように、イラストレーターによる当協会の人間ドック体験記のページを新しく掲載した。また、新規ページの掲載に伴いホームページ閲覧者の利便性を向上させるため、ウェブサイトサーバーの仕様を変更、ウェブサイトの内部構造を改良し、閲覧速度を高めた。

#### (2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」を定期的で開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

##### ①講演会開催

###### (ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 2019年11月9日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「(あまり) 病気をしない暮らしーがんは運である？」  
講師 大阪大学大学院医学系研究科 病理学 教授 仲野 徹氏

◇後援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 546名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 2019年9月14日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「腸と健康ー腸内細菌は旧友!?!ー」

講師 札幌医科大学医学部消化器内科学講座 教授 仲瀬 裕志氏

◇健康表現体操 指導 健康運動指導士 他

◇後援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 623名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇開催日 2019年7月30日(火)

◇場所 健康ライフプラザ健診センター 5階多目的室

◇講演 テーマ 「がんゲノム医療の現状」

講師 神戸市立医療センター中央市民病院 腫瘍内科部長 安井 久晃氏

◇参加者数 74名

(ii) ◇開催日 2020年2月4日(火)

◇場所 健診センター 5階多目的室

◇講演 テーマ 「口の中のがん」

講師 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 口腔外科学分野  
教授 明石 昌也氏

◇参加者数 70名

②講師派遣

事業所や団体が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣：3回

テーマ「熱中症」「高血圧」など

### ③普及・啓発活動

結核及び乳がんの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部X線検診車による結核検診及び乳房検診車による乳がん検診を行った。

○こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者 97名

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者 18名

○ピンクリボンフェスティバル神戸大会：街頭キャンペーン乳がん検診受診者 18名

○結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動

結核検診受診者：700名

○子宮の日啓発イベント：乳がん検診受診者 22名

## 2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

### (1) 地域保健

#### ①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努め、一部の自治体の市民健診会場においては、保健師や健診スタッフが重症化予防のための啓発を行い、要医療者への受診勧奨を行った。

また、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同時受診が可能な「セット健診」を、灘区の健診センター及び兵庫区の健康ライフプラザ健診センターで実施した。セット健診の受診者には、健診終了後原則全員を対象に、保健師、看護師、管理栄養士が、当日の身体、血圧、血液検査、尿検査の結果を説明し、対象者には特定保健指導及び要医療者への受診勧奨を行った。

2018年1月より新たに取り組まれている「石綿ばく露者の健康に係る施行調査」を引き続き実施し、過去に石綿にばく露した可能性のある方に対し、健康状態の確認及び健康管理に役立つ機会を提供した。

胃がん・乳がん検診は、通年で地域巡回により実施し、休日の検診実施を含めて受診率の向上に努めた。また、乳がん検診においては、医師・技師をはじめとするスタッフ全員を女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努めた。

地域大腸がん検診は、近隣の地方公共団体からの委託を受け、冬季限定での郵送方式により実施しているが、神戸市大腸がん検診では、受診機会を広げるため、郵送方式に加え市民健診及び神戸市セット健診時の持込方式を通年的に実施している。

今年度は従来から実施している「逐年受診を推奨するためコール・リコール」の対象者を、「働く世

代の大腸がん検診キャンペーン」で一度きりとなった受診者にも拡大したことで、受診者数を伸ばしてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症による3月の市民健診中止の影響等により、約2,000人の受診者数減となった。

#### ②結核検診

神戸市より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施した。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

#### ③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。また、健康ライフプラザ健診センターにおいては、平日昼間の検診を引き続き実施した。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成26～30年度と同様に実施した。引き続き、受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

#### ④フレイル健診及び認知機能検診

神戸市市民健診会場においては、国保の特定健康診査を受診していただく65歳を迎えられる方を対象に、加齢とともに全身の予備能力や筋力、心身の活力が低下している状態を早期発見するために「フレイル健診」を実施した。

また、神戸モデルとして2019年1月より開始された「神戸市認知症診断助成制度」について、第一段階「認知機能検診」の実施医療機関として参画した。

### (2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度や見積り合せにより厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診・検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑な実施をめざし、きめ細やかな取り組みを行った。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図った。

少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

### (3) 産業保健

地方公共団体や一般企業の事業所等で働く人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導による情報機器作業従事者健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、継続的な健康情報の提供による事業所等の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、システム・実施体制等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、引き続き「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

### (4) 総合健診

県民の疾病予防と健康増進を目的として、灘区の健診センターと兵庫区の健康ライフプラザ健診センターの2施設において総合健診を実施した。

多様なニーズに応えられるよう、総合健診のコースは、「半日ドック」、「2時間ドック」や「一泊ドック」に加え、健診センターでは「肺ドック」や「循環器ドック」、健康ライフプラザ健診センターでは「脳ドック」をそれぞれ実施した。

オプション検査としては、「胸部CT検査」、「頭部MR検査」、「骨量測定」、「マンモグラフィ検査」、「乳房超音波検査」、「子宮頸がん検査」等、希望に応じて幅広い総合健診を実施した。需要が年々高まっている胃内視鏡検査については、かねてより受診者からの要望が強かった経鼻内視鏡の実施体制を健診センター、健康ライフプラザ健診センター2施設とも整えた。今後は実施枠を増やしていく予定である。

総合健診の役割として、健診後のフォローアップの重要性が求められている。健診当日の接遇面のさらなる向上とともに、結果説明・要精密検査者への受診勧奨等をさらに充実させ、魅力ある総合健診を提供し、県民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

### (5) 保健指導

#### ①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場において前年度の健診結果における要医療者のうち、未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための受診の動機づけを行った。

加えて、一部の市民健診会場の受診者を対象として、健診センターや健康ライフプラザ健診センターへ健診結果票を受け取りに来ていただくと同時に個別で結果説明や特定保健指導を実施した。

健診センターの人間ドックにおいては、健診当日に結果説明や特定保健指導（初回支援分割なし型）

を行った。

#### ②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟睡のコツや疲労についての研修会、生体リズムと健康管理、時間栄養学についての情報を盛り込んだ研修会を実施した。

#### ③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後約4ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。平成30年4月にスタートした第三期特定健診・特定保健指導の改訂に合わせて、一部の市民健診や生活習慣病予防健診の受診当日に、腹囲測定の結果等を基に仮の対象者を選定して初回支援分割型を実施した。

#### ④メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に伴いシステム化し、平成28年1月からストレスチェック事業を開始している。共同実施者契約を締結している事業所については、従業員からの電話相談対応、高ストレス者には医師の面接勧奨を電話やメールで行った。また、ストレスチェックを活かして職場環境改善を行い、働きやすい職場づくりを目的とした研修会を安全衛生委員会で実施した。

加えて、メンタルヘルス対策の充実・強化のため、事業所職員のセルフケアについての健康教育として、認知行動療法に関する研修会を実施した。また、2020年6月に施行される改正労働施策総合推進法（パワーハラスメント対策が事業主の義務となった）に関連して、ハラスメント予防からメンタルヘルスを考えることを目的として、怒りの対処法（アンガーマネジメント）の研修会を実施した。

#### ⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体検診において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

#### ⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題をはじめ、受診結果以外の事柄等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

#### (6) 細胞診

神戸市子宮頸がん検診について、「新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業」として、30、50、60歳に受診勧奨ハガキが、また20歳を迎えた市民に無料クーポン券がそれぞれ送付された。通常検診（20歳以上・2年毎）は、セット健診の約1,600件を含め約24,500件で、前年度より

約1,900件減少した。これは、主に新型コロナウイルス感染症の影響等による。一方、無料クーポン券による検診は約1,100件で、前年度より約200件増加した。神戸市子宮頸がん検診全体では、約25,600件で、前年度より約1,700件減少した。神戸市子宮頸がん検診以外の医療機関からの受託分については、約3,700件で前年度より約300件の増加、また当協会施設内検診分については約9,200件で約100件の増加であった。

喀痰細胞診について、神戸市肺がん検診は約8,500件であり、前年度より約100件減少した。このうちセット健診分は約5,000件で、前年度より約300件増加した。一方、指定医療機関分は約3,500件で、前年度より約500件減少した。これは、神戸市が検査対象条件を厳守するよう、医療機関への周知を図ったためと思われる。また、当協会内部検査分は約400件で、前年度とほぼ同数であった。

#### (7) 腸内細菌検査

腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査（マルチPCR）を導入して4年が経過した。今までの培養法に比べ高感度なため、サルモネラ属菌の年間検出率は、これまでの3～4倍に当たる0.09%にまで増加した。培養法では検出できなかった健康保菌者の抽出において、遺伝子検査は有効である。引き続き腸内細菌検査業務を継続するにあたり、契約先のニーズに対応した付加価値（食品検査・衛生調査・衛生講習）の充実も図り、実施件数の増加に繋げていく。

神戸市からの感染症対策に基づいた腸内細菌（赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157）及び喀痰検査については、今年度も引き続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

#### (8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の安全確保と健康の維持」並びに「事業者による作業環境のリスク管理の推進」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,536箇所の測定を実施した。特に、昨今の産業活動に起因する健康被害や危険性・有害性の調査（リスクアセスメント）の義務付けに伴い、印刷、試験研究等に使用される有機溶剤等を対象とする測定を223箇所で開催した。

今後も、特殊健康診断と一体となり、事業場の労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作業環境管理）を提供していく。

#### (9) 食品検査等

食品等事業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において項目数で1,602件、細菌検査においては8,256件であった。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等による食中毒予防や異物混入防止に対する消費

者並びに食品等事業者の関心は常に高く、食品等事業者はより高度な衛生管理が求められており、今後も衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や、きめ細かい顧客対応により衛生管理体制の構築を支援していくとともに、HACCPによる衛生管理が2020年6月に施行され、事業者の規模・業種等に応じたHACCPによる衛生管理の実施が求められることから、食品等事業者における導入支援および管理運用に関する適切な指導、助言を行っていく。

#### (10) 水質検査

今年度の実施件数は、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査、プール及び公衆浴場等衛生管理上の水質検査は合計で1,782件であった。

今後も飲用に関わる水質検査及びプール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

#### (11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が3,017件、有効容量が10m<sup>3</sup>を下回る小規模受水槽水道が733件であった。

貯水槽水道検査結果等は、設置者の了解を得たうえで、行政庁に速やかに代行報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、検査受検率の向上に寄与するとともに、引き続き貯水槽水道の管理水準の向上や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

### 3. 予防医学に関する調査研究事業

#### (1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

##### ①論文発表（総説論文、原著論文等）

○松田淳子：超高齢社会の健診事業を考えるーもの忘れリスク健診&フレイルチェックの事業報告ー，  
予防医学ジャーナル，507：82-85，2019

○山浦泰子：Impact of Cumulative Smoking Exposure on Subclinical Degenerative Aortic Valve Disease in Apparently Healthy Male Workers，Circulation: Cardiovascular Imaging, 2019;12: e008901. doi: 10.1161/CIRCIMAGING.119.008901

##### ②学会報告等

○高橋かおる：HbA1c値と糖尿病治療が心理的および身体的ストレス反応に及ぼす影響について，第62回日本糖尿病学会年次学術集会，宮城，2019.5.23-25

○上田いずみ：メンタルヘルス一次予防としての職場環境改善に取り組むために必要な準備要因，第59回近畿産業衛生学会，京都，2019.11.9

○井筒 真実：特定保健指導初回面接時の行動変容ステージについて一事後型と分割型における比較一，第54回全国予防医学技術研究会，岩手，2020.2.27-28

## (2) 健診・検査で得られたデータの活用

### ①事業年報の配付

平成30年度事業年報の編集において、「石綿暴露者の健康管理に係る試行調査事業」や「甲状腺検査」等の項目を新たに追加し、より内容の充実を図った。

健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

### ②健診・検査データ等の活用

#### (ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

#### (イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や、健診で用いられる様々な検査の意義等の情報を講演会や学会等で発表し、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

## 4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

### (1) 健康づくり事業

#### ①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座の「健康創造都市KOBET土曜健康科学セミナー」を10回開催した。疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を取り上げ、毎回100人近い受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

#### ②健康づくり教室

慢性腎臓病や糖尿病に罹患するリスクの高い方を対象として、疾病予防と生活習慣改善を目的とした健康づくり教室を開催した。医師の講話と保健師および管理栄養士による生活習慣改善支援を中心とした内容で、21回の開催に640名が参加した。

#### ③禁煙外来

健診センターにおいて、予防医学の観点からニコチン依存症に対する禁煙治療を保険診療で実施する体制を整えている。

## (2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。

### 《設備機器等の更新・整備》

#### (1) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①基幹システムハードウェア更新
- ②各種ソフトウェアWindows 10対応
- ③胸部デジタルX線撮影装置（車載用）
- ④心音心電計（2台）
- ⑤上部消化管汎用ビデオスコープ（3台）
- ⑥超音波画像診断装置（2台）
- ⑦内視鏡光源装置
- ⑧自動染色装置
- ⑨全自動内視鏡消毒洗浄装置
- ⑩超音波骨密度測定装置

## 事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内 容	件 数 等		
			当 年 度	前 年 度	増 減 比
疾病予防のための健康 診断及び検査事業	地 域 保 健	特 定 健 康 診 査 等	54,204 人	59,357 人	91.3%
		が ん 検 診 (施 設 実 施 分 含 む)	126,359 人	133,865 人	94.4%
		結 核 検 診	44,158 人	49,536 人	89.1%
		エ イ ズ 検 診	2,795 人	2,831 人	98.7%
	学 校 保 健	腎 臓 ・ 糖 尿 病 検 診	352,207 人	363,177 人	97.0%
		寄 生 虫 検 査	4,721 人	6,942 人	68.0%
		心 臓 検 診	72,698 人	73,659 人	98.7%
		脊 柱 検 診	24,774 人	26,742 人	92.6%
		結 核 検 診	74,786 人	76,609 人	97.6%
	産 業 保 健	一 般 健 診	162,459 人	163,949 人	99.1%
		特 殊 検 診	18,146 人	18,690 人	97.1%
		協 会 け ん ぽ 生 活 習 慣 病 予 防 健 診	26,855 人	25,565 人	105.0%
		が ん 検 診 (施 設 実 施 分 含 む)	95,827 人	92,740 人	103.3%
		労 災 二 次 健 診	104 人	101 人	103.0%
		ス ト レ ス チ ェ ッ ク	24,925 人	26,545 人	93.9%
	総 合 健 診	総 合 健 診	6,489 人	6,401 人	101.4%
	保 健 指 導	特 定 保 健 指 導 等	2,283 人	1,354 人	168.6%
	細 胞 診	子 宮 が ん 細 胞 診	38,486 件	39,759 件	96.8%
		喀 痰 細 胞 診	8,895 件	9,142 件	97.3%
	腸 内 細 菌 検 査	腸 内 細 菌 検 査	69,498 件	76,467 件	90.9%
	作 業 環 境 測 定	作 業 環 境 測 定	1,536 件	1,482 件	103.6%
	食 品 検 査 等	食 品 検 査	9,805 件	13,354 件	73.4%
	水 質 検 査	水 質 検 査	1,782 件	1,631 件	109.3%
水 道 施 設 検 査	簡 易 専 用 水 道 検 査 等	3,750 件	3,824 件	98.1%	
健康支援のための健康 増進事業及び健康教育 事業	健康づくり事業	健 康 学 習	1,523 人	1,985 人	76.7%
	健康づくり支援事業	講 師 派 遣 等	57 回	58 回	98.3%